



ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”



Vol.03

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末

関ヶ原の戦い以降、大名の配置換えを機に起きた“築城ブーム”で城造りの技術が飛躍的に向上

彦根城

所在地 滋賀県彦根市

築城年 1603(慶長8年)

築城主 井伊直継・直孝

主な改修者 井伊直弼

保存状態 天守、櫓、本丸、石垣、堀などが現存。
天守と付櫓・多門櫓は国宝、櫓・城門など5棟は重要文化財。

譜代の重鎮・井伊家が居城とした「リユース城郭」

彦根城は、関ヶ原の戦い(1600年)で戦功をあげた徳川四天王の一人・井伊直政が初代彦根藩主となり、自らの居城として計画した城である。しかし直政は戦傷が癒えず1602年に死去。築城はその息子の直継・直孝らが引き継ぐこととなったが、幼少だったため、多くの諸大名が協力して「公儀普請(天下普請)」として建てられた。以後、大坂にいる豊臣方への抑えとして井伊家が代々城主となった。築城に際しては、大津城から天守、佐和山城や大津城などから櫓や城門を移築するなど、廃城にした近隣の城の資材を再利用することで、コストダウンとかつての城主の威光継承を図ったと言われる。



彦根城・天秤櫓下の石垣。奥側の石垣は築城当時の「野面積み」のままだが、手前側は幕末期に石の角部を下にして積み「谷積み(落とし積み)」で積み直されている。(提供:三浦正幸教授)

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

